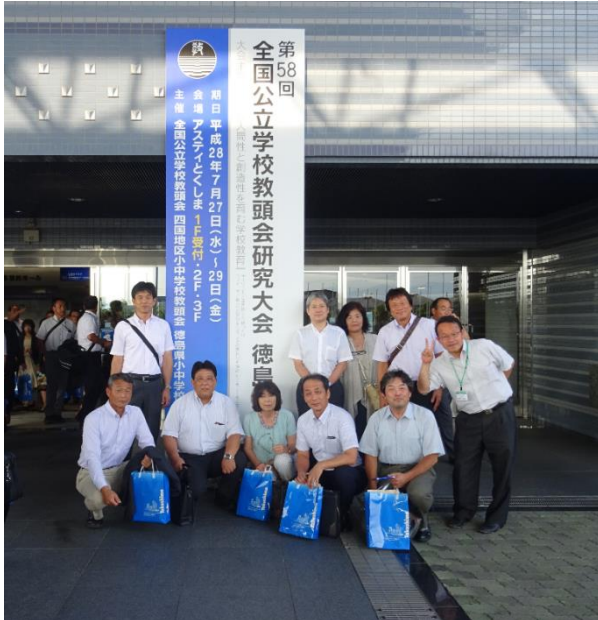


平成28年度

第58回全国公立学校教頭会研究大会(徳島大会)参加報告

平成28年7月27日(水)～29日(金)

大会主題 『豊かな人間性と創造性を育む学校教育』



一日目:受付(アトラクション)、
開会行事、シンポジウム
会場:アスティとくしま

二日目:分科会

三日目:受付(熊本地震報告)、
研究のまとめ、
記念講演、閉会行事
会場:アスティとくしま



★一日目:7月27日(水)

12:00～受付

12時20分ごろより、アトラクションとして徳島の名物 阿波踊りが披露されました。大人だけではなく、小学生や中学生のかわいらしく見事な阿波踊りに郷土芸能を幼少より学び、引き継いでいる姿に感動しました。

<開会行事>

池端会長、福田実行委員長の挨拶がありました。今年度は「生き抜く力・絆づくり」のキーワードの元、全国公立小中学校教頭会の「命」ともいえる研究大会が開催された旨を述べられました。来賓挨拶の中では、徳島県知事が人財育成に力を入れてみえることや、チェーンスクールやパッケージスクールなど地域とのつながりを考えた内容を、非常に意欲的に挨拶されたこと、徳島市長が阿波踊りを披露されたこと等が印象的でした。

<基調提案>

『絆を深め、たくましく生き抜く子どもを育てる』表題のもと高橋研究部長から提案されました。



<全体シンポジウム>

テーマ

「郷土への誇りを持ち 人との関わりを深め たくましく生き抜く子どもの育成」

コーディネーター 阪根 健二氏(鳴門教育大学院 教授)

シンポジスト 浅田 和伸氏(文部科学省大臣官房審議官)

高橋 博義氏(神山町教育委員会教育長)

松浦 素子氏(株式会社本家松浦酒造場 代表取締役)

シンポジストの方々より、それぞれの立場からテーマに関する話題が提供されました。興味深い内容ばかりでしたが、特に神山町の過疎地域に対し、必要な内容を選定し、役場や教育委員会が資金を提供して地方創生を非常に意欲的に行ってみえることに感心しました。その実績も世界にまで及んで知られており、志や施策がいかに大切かを再認識しました。また、松浦代表取締役から、ほめることも大切だが小中学校時代には「我慢する」ことを教えることが必要と言われたことは実体験に基づく企業者ならではの意見だと納得しました。他に浅田氏からは地域の方々や保護者など、学校や教育への応援団を増やしていくことが大切であり、そのためには、私たちが地域、学校、児童生徒等身近な人々や事柄などを知りたいと思うことが重要、そして愛着を持ち、好きになることは不可欠であると何度も述べられました。阪根コーディネーターは非常に親しみやすく、笑いもありといった時間はあっという間に過ぎ、非常に有意義で学ぶべき内容の多いシンポジウムでした。

★二日目:7月28日 分科会9:00～ 7課題10分科会

内容は次号の会報で掲載の予定

第3分科会で北村協右全公教研究部員(三公教役員)が運営委員として活躍しました。



★三日目:7月29日 8:20～受付

熊本県益城町の小学校より、熊本地震の被害状況や避難所生活から、学校再開までの報告がありました。避難所で苦しい中でも笑顔を忘れず、元気に活躍する子どもたちの姿や一致団結した学校教員の姿に心が揺さぶられました。また、教頭としていかに動くべきかなど、これからの防災対策について多くの示唆をいただきました。

<研究のまとめ>

各分科会からのまとめ発表の中で、北村全公教研究部員が第三分科会のまとめを簡潔にわかりやすく発表しました。

<記念講演>

講師:横石 知二 氏(株式会社いろどり 代表取締役)

演題:そうだ、葉っぱを売ろう ～居場所と出番づくり～



日本映画「人生 いろどり」2012年のモデル

非常に内容が充実しており、2時間弱の講演もあっという間に過ぎてしまいました。管理職として、学ぶ内容の多い素晴らしい人でした。またこの方を支えられた奥さんも素晴らしいと思いました。その内容から、言葉の断片を少し紹介します。

○「ちょっと高めだがやってみたいな」その気持ちが大切、そしてそれを実行することが重要。価値観を変え、負の連鎖から抜け出すプラス思考、マイナスをプラスに変える。

○新現場に行ったとき、「愚痴は言わない、信用してもらえる人間になる、実績をあげてみせる」

○意気込みが大切、そのためには自分にできることから始める。

○地域おこしには舞台づくりが重要でそれが9割である。「一人一人が好きなこと、認められたいこと、自分だけだと思える、自慢できること」これらが可能になる舞台を設定する。

○今後、いろどり社会をつくりたいと考え、地縁、職縁、女子縁が大切で、地域で仲間とともに好きなことをして稼ぐ、そして新たなコミュニティをつくっていく それらをねらいとしている。

<閉会行事>

次年度は埼玉県で開催されるので、埼玉大会実行委員長からビデオ紹介とともに挨拶がありました。すでにコーディネーターや講師等決定しており、今年度同様期待が膨らむ内容となりそうです。

また、次年度は三重県公立小中学校教頭会会長が全公教の副会長となることや分科会で度会郡が提言発表を行うことなど、今年度にも増して活躍が期待されます。

(辻 幸子)